

再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道防災課
担当課長名：木村 昌司

事業名	国道18号 坂城更 埴バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	直轄
起終点	自：長野県千曲市大字八幡 至：長野県千曲市大字稲荷山				延長	3.0km
事業概要	当該区間の国道18号沿道は市街化の発展、産業の進展により、交通需要が増大したため渋滞が発生し、特に国道18号と国道403号との交差点である杭瀬下交差点付近は、渋滞の著しい箇所となっている。本事業はこれらの渋滞の解消と千曲川左岸地域の活性化を目的としている。					
H9年度事業化		S60年度都市計画決定		H11年度用地着手		H12年度工事着手
全体事業費	約160億円		事業進捗率	84%	供用済延長	約2km
計画交通量	6,200～8,800台/日					
費用対効果分析結果	B/C (未完成区間全体) 1.5 (H19以降の残事業) 2.8	総費用 (H19以降)/(未完成区間全体) 28/53 億円 事業費：21/46 億円 維持管理費：7/7 億円	総便益 (H19以降)/(残)(未完成区間全体) 78/78 億円 (走行時間短縮便益：72/72 億円 走行費用減少便益：5/5 億円 交通事故減少便益：1/1 億円)	基準年 平成18年		
感度分析の結果						
事業の効果等 坂城更埴バイパスの整備を図ることで、並行する（主）長野上田線を通行せずに交通が処理できるため、地域住民の安全性が確保されるほか、工業団地へのアクセス向上が図られる。						
関係する地方公共団体等の意見 「新国道上田篠ノ井間建設促進期成同盟会」（会長：千曲市長）より早期促進の要望がある。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 平成17年に千曲市大字稲荷山から県道姨捨停車場線までの延長約2kmについて暫定2車線供用。						
事業の進捗状況、残事業の内容等 現在までに約2kmが部分供用し、約1kmが未整備である。当該事業区間は用地取得率98.0%（事業進捗率84.4%）であり、平成19年度内の暫定2車線開通を目指し事業促進を図る。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 未開通区間である県道姨捨停車場線から千曲市大字八幡までの延長約1kmにおいて、共有地の相続手続きなど、用地買収手続き等に時間を要したことがあげられる。						
施設の構造や工法の変更等 関係機関との調整により橋梁からボックスへ形式変更することでのコスト縮減に努めるとともに、プレキャスト製品の採用等による工期短縮を図り、併せて整備効果の早期発現を図る。						
対応方針 事業継続						
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。						
事業概要図						

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。